

# 市民活動のエネルギーと ボランティアコーディネーター(5月)

ボランティアは地域福祉の重要な担い手であり、推進者でもある。したがって、量的にも質的にもボランティアとして大きな力を発揮している。そのために、市区町村の社会福祉協議会に「ボランティアセンター」が設置され、ボランティアコーディネーターがボランティアを必要としている人とボランティア活動をしたい人とのマッチングする役割を果たしている。

ボランティアコーディネーターの働きとしてはボランティア活動に参加したい人たちを性別、階層別、年代別、職業別などの面に分け、①学童・生徒ボランティア、②大学生・専門学校などの学生を中心としたボランティア、③青少年ボランティア、④主婦層のボランティア、⑤中高年齢者のボランティア、⑥高齢者ボランティア、⑦企業内ボランティア、⑧すし屋、菓子屋、飲食店などの職業別による従事者のボランティア、⑨医師、看護師、保健師等専門家グループによるボランティア、⑩板金組合、大工組合、クリーニング組合、理容・美容組合、労働組合等の組合グループによるボランティア、⑪商工会、青年会議所、農協、生協、ロータリークラブ、ライオンズ

クラブ等、企業別組織や商工関係グループ等によるボランティアなど、その範囲は年々拡大し、ボランティアの拡大をしていく役割も担っている。

ボランティアの問題は、単に量的な面からではなく、質的な面からも問わなければならない。その面からボランティア活動を見ると、当初、社会福祉施設への慰問や奉仕活動が中心であったものが、最近では在宅福祉活動や地域福祉活動、あるいはまちづくり事業に関するボランティア活動等が行われている。

ボランティア活動は住民参加型福祉サービス推進の担い手であり、住民参加の推進役としての期待が大きい。

ボランティアが、住民参加型福祉のパワーとなり得る特性として大阪ボランティア協会では『①資源提供性、②地域的接近性、③連带的協働性』をあげ、さらにそれを助長していくために、『①福祉教育の充実、②「学童生徒のボランティア普及事業」等学校教育における福祉教育の充実、③住民参加を保障するセンターの設置、④ボランティアコーディネーターの設置、⑤ボランティア活動の主体性を保障し、行政とも協働できる条件整備』をあげている

